

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018 年 11月 28日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	クイーンズランド大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界: 出版)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要						
派遣先のクイーンズランド大学は国内でもランキング上位に入る国立大学である。大学の特徴としては他の大学に比べ人文系が強いこと。外国語学習やCreative Writing、コミュニケーションやメディアなどの学部の授業に強みがある。またクイーンズランド内にケアンズなどの観光都市がある都合上、観光学部や海洋学なども盛ん。同様にクイーンズランドに属するトレス諸島についての学問もケアンズに次いで有名だと思う。日本語学習も盛んで、日本の大学への交換留学生も多々輩出している。						
留学した動機						
英語力を高めたいと考えたから。中でも自分の専門分野でありかつもっとも興味を持っている英文学の授業を通じて英語力を高めたいと考え、英文学部に強いクイーンズランド大学を選択した。イギリスの大学という選択肢もあったが、日本との関係性が深く日本への興味が深いオーストラリアにすることで英文学部に在籍しながらもより広く深く交友関係を作ることができるのではないかと期待した。						
留学の時期など						
①留学前の本学での修学状況:	2018年	学部3	年生の	A2	学期まで履修	
②留学中の学籍:	留学					
③留学期間等:	2018年	2月~	2018年	11月	年時に出発	
④留学後の授業履修:	2019年	学部4	年生の	S1	学期から履修開始	
⑤就職活動の時期:	2019年	学部4	年生の	3月頃に	行う予定	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			177	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			5	単位	
	留学後の取得(予定)単位			182	単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015年	4月入学	2020年	3月卒業/修了		
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間			
⑨留学時期を決めた理由:						
専門知識を学ぶことができる2年A Semester~3年次の学習を終えてから留学したいと思っていたから。専門知識を日本語ですでに学んでおくことで留学先での授業に対応しやすくなると思っていたし、卒業論文のテーマもある程度検討がついており留学先で学ぶ内容決定に役立つと思っていたから。						

留学の準備					
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)					
授業の登録とは別にチュートリアルの登録があり、これが先着順で埋まるので気をつけること。My-SInetからチュートリアルの受付開始日と時間がわかる。授業ごとに異なる日時をしていることが多いので注意。まただいたい人気の時間帯は開始から1-5分程度で全て埋まってしまうことも多い。					
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)					
ビザはスチューデントビザになる。申請はオーストラリアの移民局にネットから。手続きは全てネット上で済ませられるので記述項目は多いが比較的容易だと思う。短期滞在であることを証明する作文を書く必要があるのもそれは事前に用意しておくこと。書類作りに2日程度かけた。身分証明書類として私は住民票の英訳をつけたが、周りの日本人留学生の話を見ると正直なくても通りそうな感じはする。申請から2-3営業日でビザは習得できる。					
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)					
オーストラリアは留学にあたりビザの条件としてOSHCという保険に入る必要がある。クイーンズランド大学に手配してもらうこともできるし、自分で手配することも可。常備薬については痛み止めと市販の風邪薬、および持病の薬トピー関係の薬を持っていった。予防接種は特にしていない。					
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)					
東京大学から指定される付帯海学に加入。上記に書いた通りビザの条件としてそれとは別にOSHCという健康保険サービスに加入している。					
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)					
Aセメスターの授業が全て終わった後のタイミングで留学できたので特別な授業上の手続きは必要なかった。					
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)					
留学まえのTOEFLスコアがoverall89。リスニングとリーディングは高得点だがスピーキングとライティングに難ありだった。語学学習は大学で英語の授業を毎セメスター2-4ほど取っていた以外に特に対策はできていなかった。留学直前がAセメスターの課題提出時期と一人暮らししていた部屋の解約などが相まって留学前の語学学習も十分ではない。					
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど					
不安がある授業については予習をしておくといいいのではないかと思う。私も日本にいる間に読むのが難しそうな幾つかの本は和訳に目を通しておいた。また、留学直後には英語が聞き取れず苦勞したことが多かった。その国の英語の発音を確認できるような動画などでリスニング力を鍛えておくとスタートがスムーズだと思う。リスニング対策程度なら忙しくてもできるはずだったと後悔した。ブリスベンしかり、オーストラリアは日本企業(ダイソーやユニクロなど)や日本食レストランの進出などが進んでいて日本から持参するものは特にない。ただ物価はやや高いので、手荷物にもしも余裕があるなら現地で使いそうなもの(文房具・衣類・化粧品やPC周りの機器など)はある程度揃えていくのがいいかもしれない。					
学習・研究について					
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。					
授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
WRIT1001	2	●	ENGL2460	2	●
ENGL1800	2	●	WRIT2100	2	
ENGL2440	2	●			
ABTS1010	2				
ENGL1500	2	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)
<p>英文学の授業は一授業あたりほぼ1-2週間に一冊(200-500ページ)の英文学作品を読んでいた。Torres Strait Islander peopleについての授業では毎授業論文を2-3本読んでいた。授業は大教室におけるレクチャーと10-30人程度で行われるチュートリアルからなる。</p>
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
<p>semester1は3、semester2は4授業をとった。単位数は1科目2units。授業は1年生向けだけレクチャーが60分、2年生以降は90分、チュートリアルは学年関わらず90分だった。だいたい一週間に授業以外で35-50時間くらい勉強していたと思う。</p>
④学習・研究面でのアドバイス
<p>レクチャーはレコーディングもあるので必要に応じてテスト前などには聴き直すといいかもしれない。論文はともかく本が予習の時はすぐに読み終わるようなものではないので早め早めに時間を作る必要がある。</p>
⑤語学面での苦勞・アドバイス等
<p>リスニングがうまくいかず当初は苦勞した。出発前にもっと耳を慣らしておくべきだった。一年通じて必ず課題などはネイティブにチェックしてもらっていたが、英文学部で求められるようないい英文にはまだまだ程遠かった。とはいえ、このチェックがなかったらもっと点数はひどかったと思う。</p>
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
<p>先輩からのご紹介で10ヶ月間ホームステイをしていた。もともとstudent accommodation に応募するつもりだったが、現地の留学生の様子を見る限り割高だったよう。ホームステイ以外なら寮に行くか自分でflatを探す方がいいと思う。</p>
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
<p>気候は常に温暖。真冬でも分厚いコートなどはいらない。大学へはフェリーかバスでアクセスする。市内には電車も走っている。いずれもgo cardという交通系カードを使うのが便利だし安い。食事は様々なアジア系レストランやスーパーマーケットがある。ただし食事付きのホームステイだったのであまり外食はしなかった。お金は基本的に少額からカードが使えるので、ホームステイの支払い以外は全てカードで賄っていた。現金は日本の口座からカードを使って海外通貨の引き出しをしていた。</p>
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
<p>治安は特に問題ない。よほど郊外の治安の悪いところに行かない限り問題ないと感じた。体調を崩さなかったので医療機関は利用しなかったが、困ったことがあればOSHCのアプリを使って医師に相談をするのがいいのではないと思う。到着してすぐが残暑なので、暑さ対策は十分にしておくのがいいと思う。</p>
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>
<p>全体的に交通費、通信費以外の物価は高いと思う。ホームステイ料金が朝昼晩の食事込みで週に\$290で毎月\$1160、大学までの交通費が\$40-60、携帯代金が\$30、その他友達と外食すれば一回\$10-30はかかる。教科書代はセメスターのはじめに英文学はひと授業\$100ほどかかった。航空費は安いチケットが取れば別だが私は片道60000円弱くらいかけている。</p>

・留学に要した費用総額とその内訳	
約156万円。うち大きな出費については年間通じてホームステイ費用が90万円ほど。旅行代金が20万円、航空券が往復合わせて9万円ほど。ほか、教科書代が8万円、交通費が6万円、保険代金が6万円ほど。この金額にビザの申請費用やOSHCの代金は含まれていない。	
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)	
Fung Scholarshipsを東大からの紹介で受給していた。月7万円を受けとった。	
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)	
学内の日本語サークルに所属して交友関係を広げた。2学期は途中からボランティアに参加したがあまり活動が多くなかった。満足に機会を利用できなかったと思う。週末は課題をしたり友人とイベントに出かけたり遊びに行ったりしていた。長期休暇は国内の大都市に3-7日間ほど旅行した。ただし、1-2学期の間の休みは対して長くないし、mid-semester breakも課題をしていると終わってしまうので旅行を多くしたいなら予定を立てたほうがいいかもしれない。	
派遣先大学の環境について	
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)	
学期のはじめ6週間ほどは無料の英語力改善講座がある。もちろん圧倒的に英語力が伸びるわけではないが、いい練習になるし友人を増やすのにもつながる。それ以外にも学内でイベントをかなり開催している。オリエンテーション期間はメンターサービスがあるが利用しなかった。	
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)	
図書館はある程度本が揃っていると感じた。スポーツジムは学内にあるが有料で、決して安価、とまでは行かない金額だと思う。学内には安価なカフェテリアのほか、多くのカフェや売店がある。PCは特に試験期間などは明らかに足りていないので自分のPCを使ったほうがいいと思う。Wifiはどの建物でも比較的快適に使える。	
留学と就職活動について	
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど	
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響	
英語を使う職種に興味を持つようになった。正直留学をしている人は多いので、留学経験が自分の就活における大きな武器になったとは言い難いが、一つの強みとしてアピールできたらいいとは思っている。ただし、帰国が11月末となり、夏から説明会やインターンに行っていた同年代に遅れを取る可能性が高い。	
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)	
帰国GO.comの学内レクチャーに参加したりweb説明会を受講したりした。シドニーでの就職イベント及びボスカリは参加していない。	
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
	3. 公的機関(機関名:)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
	5. 民間企業(企業名又は業界:)
	6. 起業(分野:)
	7. その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

もともと目標としていた英語力の伸びを実感することができた。まだまだネイティブには程遠いし、話せないことも多いがある程度コミュニケーションをとる語学力と度胸がついたと思う。また、自分が今まで日本で学んできた内容を英語で深め広げていくのはとても楽しかった。日本での学習は留学中に大いに生きてきた。

②留学後の予定

授業がない11-3月にかけては冬インターンに費やして遅れを取り戻したい。3月からは就職活動をする予定。9月ごろ教育実習及び介護実習を行い、卒業論文を書いて卒業する。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

オーストラリアは日本人が多いと敬遠されることが多いが、ローカル・ネイティブの友人を作る上でこれほど楽な環境はないと思う。日本に全く興味がない人と友人になるのは非常に困難。日本への関心が非常に高いオーストラリアではネイティブとも共通の話題を見つけやすくすぐ友人になれる。また、留学生慣れ・移民慣れしているのでローカルは見た目だけではこちらを英語ができないと見下してゆっくり英語を話してくる、などといったことはない。授業でも日常生活でも、アジア系の見た目・英語発音だからと特別扱いされることはなく、対等に扱われると感じた。課題評価もきっちりネイティブと同じ基準で判断されるので厳しい時もあるが、絶対に成長につながると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。オーストラリアに留学したことがある・ワーホリに行ったことがある人はかなり多く、日本語でブログを書いていることも多いので検索して情報を探してみるといいと思う。また、先輩に話を聞くのは最も便利で早い方法なのでどんどん活用してほしい。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

